

## 平成28年度補正予算（第3次）（防衛省所管）の概要

自衛隊の安定的な運用態勢の確保 . . . 1, 706 億円

(1) 弾道ミサイル攻撃への対応 . . . 331 億円

北朝鮮は今年に入って、20発以上という過去に例を見ない頻度で弾道ミサイルを発射し、弾道ミサイル開発について、技術・運用能力の向上を追求。こうした北朝鮮の能力向上への対応は喫緊の課題であり、最大限早期に事業を推進。

- 能力向上型迎撃ミサイル（PAC-3 MSE）の導入
- イージス・システム搭載護衛艦の能力向上等
- 将来の弾道ミサイル迎撃態勢についての調査研究



PAC-3 MSEミサイル



「あたご」型護衛艦  
(写真は護衛艦「あたご」)

(2) その他 . . . 1, 375 億円

我が国周辺の安全保障環境や頻発する自然災害に鑑み、活動が増加する自衛隊の安定的な運用態勢を確保。

- 護衛艦、潜水艦、哨戒機 P-1 等の整備、救難飛行艇 US-2、情報収集用器材、災害対処に必要な装備品等の調達
- 装備品等の部品費・修理費の確保、庁舎の耐震対策等
- PKO活動等の派遣期間延長に係る経費 等

※ 以上の他、給与改定に伴い不足する自衛隊員の給与等として55億円を、災害により被災した施設等の復旧として8億円を計上。  
これにより、防衛省計上額の総計は1, 769 億円となる。

**平成28年度補正予算(第3次)(防衛省所管)**

1. 自衛隊の安定的な運用態勢の確保

1,706億円

主な内訳	数量	金額
<b>(1)弾道ミサイル攻撃への対応.....331億円</b>		
能力向上型迎撃ミサイル(PAC-3 MSE)	2個群及び教育所要	0億円
イージス・システム搭載護衛艦の能力向上等	-	330億円
将来の弾道ミサイル迎撃態勢についての調査研究	-	0.4億円
<b>(2)その他.....1,375億円</b>		
固定翼哨戒機(P-1)	20機	362億円
26年度護衛艦	1隻	30億円
26年度潜水艦	1隻	35億円
27年度潜水艦	1隻	53億円
戦闘機(F-35A)	8機	68億円
輸送機(C-2)	2機	82億円
救難ヘリコプター(UH-60J)	1機	32億円
戦闘機(F-15)の近代化改修	8機	18億円
早期警戒管制機(E-767)の能力向上	1機	92億円
救難飛行艇(US-2)	1機	0億円
情報収集用器材	-	4億円
災害対処に必要な装備品等	-	167億円
装備品等の部品費・修理費	-	300億円
庁舎の耐震対策等	-	4.2億円
UNMISSに係る経費	-	10億円
海賊対処行動に係る経費	-	24億円
為替レートの変動に伴い不足する外貨関連経費	-	68億円
その他	-	25億円

※以上の他、給与改定に伴い不足する自衛隊員の給与等として55億円を、災害により被災した施設等の復旧として8億円を計上。

これにより、防衛省計上額の総計は1,769億円となる。

※能力向上型迎撃ミサイル(PAC-3 MSE)及び救難飛行艇(US-2)については、新規後年度負担による。

※四捨五入により、合計が符号しない場合がある。